

**製品名: PLCG1 マウスモノクローナル抗体****カタログ番号: AMM81630**

研究使用のみ

**概要**

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ICC,ELISA,FC
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05%アジ化ナトリウムを含む PBS 中の精製抗体
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:200-1:1000,ICC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400
分子量	148.5kDa

**抗原情報**

遺伝子名	PLCG1
別名	PLC1; NCKAP3; PLC-II; PLC148; PLCgamma1
遺伝子 ID	5335.0
SwissProt ID	P19174
免疫原	大腸菌で発現したヒト PLCG1 (AA: 1192-1291) の精製された組み換え断片。

**背景**

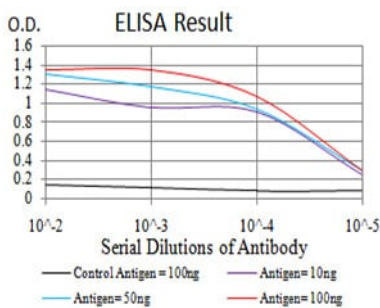
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ホスファチジルイノシトール 4,5-ビスリン酸からイノシトール 1,4,5-トリスリン酸とジアシルグリセロールの生成を触媒します。この反応はカルシウムを補因子として利用し、受容体型チロシンキナーゼ活性化因子

の細胞内伝達において重要な役割を果たします。例えば、SRCによって活性化されると、このタンパク質は Ras グアニンヌクレオチド交換因子 RasGRP1 をゴルジ体へ移行させ、そこで Ras を活性化します。また、このタンパク質はヘパリン結合成長因子 1 (酸性線維芽細胞増殖因子) 活性化チロシンキナーゼの主要基質であることも示されています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする 2 つの転写バリエーションが見出されています。

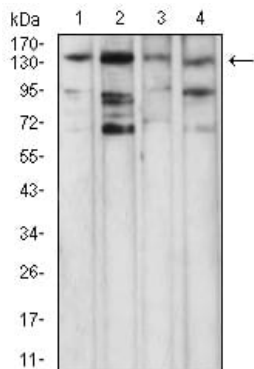
## 研究分野

-

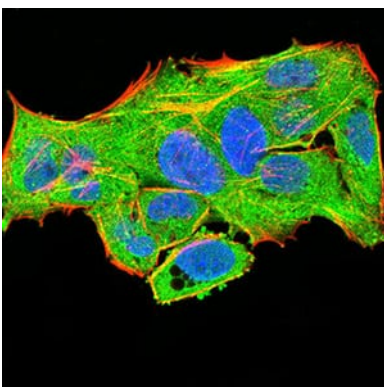
## 画像データ



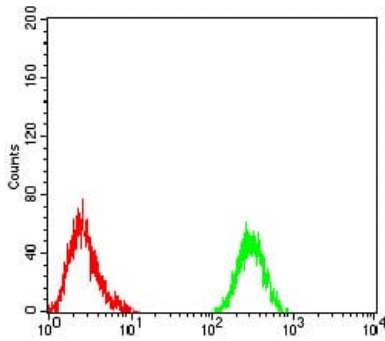
黒線: コントロール抗原 (100 ng) ; 紫線: 抗原 (10 ng) ; 青線: 抗原 (50 ng) ; 赤線: 抗原 (100 ng)



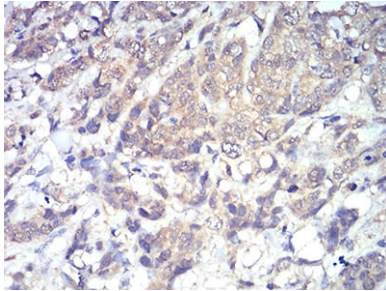
NIH/3T3 (1)、Jurkat (2)、A431 (3)、および HeLa (4) 細胞溶解物に対する PLCG1 マウス mAb を使用したウエスタンブロット分析。



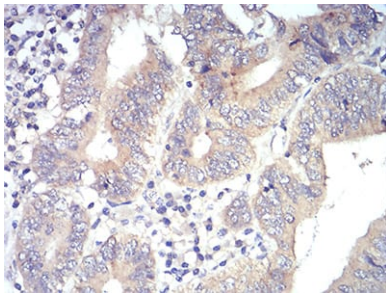
PLCG1 マウス mAb (緑) を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。青: DRAQ5 蛍光 DNA 色素。赤: Alexa Fluor-555 ファロイジンで標識されたアクチンフィラメント。



PLCG1 マウス mAb (緑) とネガティブコントロール (赤) を使用した Raji 細胞のフローサイトメトリー分析。



PLCG1 マウス mAb と DAB 染色を使用したパラフィン包埋ヒト乳がん組織の免疫組織化学分析。



PLCG1 マウス mAb と DAB 染色を使用したパラフィン包埋ヒト食道組織の免疫組織化学分析。